令和６年度　伊那市立手良小学校　評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
校訓「思いやり」 やさしい子【情操】 かしこい子【創造】 やりぬく子【意志】 元気な子【活力】	めざす手良っこの姿 『みんなと学ぶ』・『みんなが笑顔』・『みんなと一緒』
	今年度の重点目標
	⑴　少人数を生かした個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実をはかり、新しい時代に必要となる資質･能力を育てる。
	⑵　自分と他者を大切にし、お互いに思い合うことにより、自己有用感を高め、互いを認め合える人間関係づくりを進める。
	⑶　地域や家庭と共に、ふるさと「手良」への愛着をもち、自分も手良の一員である自覚と地域の方に支えられている意識を高める。

総合評価
○引き続いて学校・地域で子どもたちが笑顔であいさつをし、生き生きと生活する「手良っこのよさ」を地域や保護者に認めていただいている。少子化が加速していく現状も踏まえて、これまで大切にしてきたもの、前年度踏襲で取り組んできたことを徐々に見直し、真に必要な活動とは何か、アフターコロナの今、見直しをすすめつつ、よりよい学び、よりよい育ちについて、地域とともに考えることができた。 ○子どもたちが授業の中で、友だちや地域の人たちを含めた人との関わりを通して主体的に学び、よりよい学び方を通して、自己を高め、生きる力をはぐくめるようになってきた。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴　ICT の活用が浸透し、それぞれの職員が授業の中で意図的には話し合いの場面や意見交換の時間を作ってきた。共同閲覧することが特別なことではなくなり、自らの考えを広め、かつ友だちの考えのよさに気付くための手段になりつつある。	A a	○職員の主体的な教材研究を今後も進めていきたい。単級であることから、異学年間の授業づくりを学び合う職員の関係、近隣小中学校の取り組みを学ぶ機会を大切にしていきたい。
⑵　2 学期当初に実施した Q-U 研修での学びを学級づくりに生かすことができた。「ひとみウイーク」で子どものよさを伝えることを通して、多くの子が自己有能感を感じ、生き生きとした姿を見せてくれた。	A a	○「ひとみウイーク」に限らず、日頃から子どもの声をよく聴き、よく見て、よく声をかけて、関係づくりを大切にする。子どもを認める、感謝の気持ちを表すなど日頃から意識して取り組めるようにする。
⑶　地域の方を講師に招いた学習や活動、地域に出向いての学習など、地域の皆様のお力をお借りして、子どもたちはワクワクしながら学習活動に取り組むことができた。学習の振り返りを通して、地域のよさに気づける場面を大切にしたい。	B b	○担任以外の大人、その道の達人から学ぶ機会があることは、子どもたちの学びを広げていくうえで有意義である。「地域の行事」「地域の文化」など学びの機会を保ち、子どもたちの思いや願いを大切にする活動を創りあげていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○連学年授業・単元内教科担任制の試行	○教職員それぞれの専門性を発揮し、充実した授業の実践ができたか。複数職員で児童理解を進めることができたか。	○体育が専門の 6 年担任が知的障害学級の体育を、理科が専門の知的障害学級の担任が 6 年の理科を受け持つといった得意分野を生かした授業を行うことで、より充実した学びを保証することができた。 ○少人数単級であることを生かして連学年合同で体育を実施することができた。空き時間となった職員は教材研究に充てるなど働き方を工夫することができるとともに、複数の眼で児童理解をすすめることができた。	B b	○担任それぞれの専門性を生かした授業を通して、違った角度からの児童の見取り、よさを共有できるよう、今後も教科担任制を進めていく。 ○学級が少人数化してきていることから、保護者からも異学年との学習の機会を大切にしてほしい、という声があがっている。保護者にはそのメリットが伝わりにくいことも考えられるので、学年通信などで児童の学びのよさ、意識の変容などをていねいに伝え、理解を得ながら、連学年授業、単元内教科担任制を進めていく。
	学習指導	○協働的な学びを軸にした授業づくり	○「一斉教授型の授業」から「対話型の授業」、「教える授業」から「教えない授業」へ、これまでの授業観を更新しつつ、授業づくりを進めることができたか。	○授業内での子どものつぶやきや学習の振り返りを生かした授業づくり、単元展開を行うことができた。子ども主体の授業づくりを意識できたといった振り返りがあり、職員の意識の変容がみられた。	B b	○学習の目標や要点を明確にしつつ、必要感のある対話の場面を大切にしたい。「自分の考えを持つ力」「自分の考えを伝える力」「友だちの考えを聞く力」「互いの考えをもとにより考えを深める力」について、さらに伸ばせるような授業づくりに努める。
		○教科等横断的で、子どもの思いや願いを大事にした学習の展開	○子どもたちの言葉を大切に、子どもたちの意識にそった学習問題・学習課題を据えることができたか。その追究は意欲的で深まりのあるものになったか。	○学級の生活･総合的な学習の時間において、子どもたちの得意なこと、興味をもっていることをもとに、めあてを決めだし、多くのクラスで地域の方との関わりや学習材を生かした活動ができた。学年にもよるが、活動の成果が「クラスの自慢」と思えるようなまとめができた。	A b	○手良の「ひと」「もの」「こと」とつながる機会を今後も積極的に位置づけ、地域のよさを実感しながら各学年の生活･総合的な学習の時間を充実させたい。 ○授業の振り返りの場面で、「なぜ？」「どのようにして？」「何によって？」と問い返すなど、さらに追求への意欲が高まるような教師の出を大切にする。
		○ＩＣＴの利活用	○クラウドの共有・共同編集機能を存分に活用し、深まりのある学習を展開できたか。	○ICT 機器の活用では、子どもの中でも特別なものではなく、ツールとして認識し始め、タブレットを使うかノートを使うか自分に合うツールを選択して使う場面も出てくるなど、必要感をもって活用できるようになりつつある。	B b	○共同閲覧、共同編集といった多様なものの考えに触れるよさと、ＡＩドリルなどの個別対応できるよさをこれからも生かす。取り組みに差が出ないよう、連学年会での職員間の情報共有の場をもつ。
	生徒指導	○対話による児童理解と支援	○日常的に受容、共感、肯定を大事にして子どもたちの声に耳を傾け、声がけを大事にし、子どもたちの自己肯定感・有用感を高めることができたか。	○「ひとみウイーク」の実践により、子どもの姿をよくみて、声をよく聴くことの大切さを感じることができた。適切な褒め方、児童の個性の理解など、連学年会などで協議、情報共有をしていく。	A b	○授業交換、児童情報の共有を通して、多角的に児童のよさを見とることができるような職員態勢を整えたい。「ひとみウイーク」に限らず、日頃から職員が子どものよさに気付き、伝え、子どもたち一人ひとりが自己のよさを実感できるようにする。
		○素早い情報共有と対応で児童・保護者へのチーム支援	○素早い情報共有と対応の方向性の確認により、具体的な対応をとることができたか。	○スクリーニング会議の実践により、どの子にも目を向け、必要な支援をチームで考えていけるような態勢が整いつつある。SC・SSW の支援もたいへんありがたかった。保護者との合意形成を大切にしながら、よりよい支援を探ることができた。	A b	○学校だけでなく、外部機関との連携を大切にし、迅速で適切な支援ができるような「態勢づくりを今後も大切にしていく。短期的な目標･長期的な目標を据え、職員間で意見交換していく。
学校運営	安全	○防災教育の充実と安全な環境づくり	○自らの身を守るために、その場で判断し、進んで行動できる児童	○校舎内のあらゆる場所で、想定される危険を予測できる力をつけるという目的で訓練を行った。身のまわりの危険を予測することで、日常の事故防止にもつなげられることが課題となる。自らの命は自分で守ることを今後も意識付けたい。	B b	○学校評議員会でのご指摘を受け、防災教育を学校内にとどめることなく、地域との連携についても今後考えていけるようにしたい。地域一体となって防災のあり方、具体的な行動の仕方などを考えられるようＣＳでの検討の機会をもちたい。
		○登下校時における安全確保･安全指導	○登下校における安全、休日等の安全な過ごし方など、日常生活の安全指導ができたか。	○ＰＴＡや子どもの安全見守り隊へ、下校時刻のお知らせや学校便りを通して、支援をお願いし、児童の登下校時の安全確保に努めてきた。少子化に伴い、通学路の変更や登校班の見直しがされるため、今一度、通学路の整備の見直しをすすめたい。	B b	○一部通学路の変更に伴い、グリーンベルトの整備など、新たな対応が必要になってくる。消えかかった道路表示なども含めて、ＰＴＡ教養部、手良地区安協の皆さんとともに、通学路の再点検を行う。
	地域との連携	○手良保育園との連携	○保育園の「遊び」から小学校の「学び」へ。保小が一貫した目指す子ども像を描き、具体的な取り組みがなされたか。	○二度の保育園･小学校の連携会議を通して、職員間の情報交換や子どもの育ちに対する願いついて考え合うきっかけを作ることができた。また、交流活動の日常化を進めることもできた。研究のテーマに沿って、保小で同じ方向を向きながらよりよい手良の子どもの育ちについて研究を深めたい。	B b	○運動会や音楽会の招待、来入児体験入学といった行事に限らず、隣接施設であることを生かした日常的な交流や遊びなどの活動をすすめていく。子どもの実態やこの地域として願う子どもの姿・育ちなどについて、今後も年 2 回ほどの連携会議によって共有する。また、保小の取り組みを地域にも発信し、地域が一体となって、子どもの成長に関心が持てるようにしたい。
		○地域（ＰＴＡ・各種団体）との連携	○地域の方々との活動や学習、体験を通して、ふるさと「手良」への愛着をもち、自分も手良の一員である自覚と地域の方に支えられている意識を高めることができたか。	○学習支援ボランティアの方に入っていただくことで、子どもたちの様子を第三者の目から見てアドバイスをいただけた。担任だけではなく、その道に精通した方に聞くという考え方が身につき、学びの幅を広げていけるようにすることが課題。 ○クラブ活動では地域講師、ともに体験していただける方が集まり、地域の方との関わりを広めることができた。	B a	○第三者として、教職員とは違った眼で子どもたちに関わってくださり、たいへんありがたい。引き続いてボランティアの募集を呼びかけて、学習支援に限らず、各種体験や地域文化の伝承に関わる方を募る。百人一首クラブのように、ともに楽しみつつも地域イベント「百人一首大会」といったイベントを学校としても支えていきたい。
		○学校情報の発信	○学校ホームページ、学校･学年だより等各種通信によって情報を発信し、学校の今を、子どもの学びを発信することができたか。	○学校･学年だより、学校ホームページでは、毎週の学校や学級の取り組みや出来事を発信していくことができた。 ○大量のチラシのメール化により、配付の手間が省け、一日の振り返りなど学級の時間をゆとりをもって行うことができた。	B a	○保護者の方が学校での子どもの姿を見られないことにより、学校ホームページや学級だよりの充実に期待していることが学校評価で分かった。よい姿はもちろん、課題ととらえていること、家庭とともに考えていきたいことなどを含め、内容を充実させる。 ○「省資源」「担任の働き方改革」の観点からチラシのデータ化をお願いしていきたい。

	研修	○児童理解研修・授業研修	○児童理解、児童支援を進めるための、ＳＣ、ＳＳＷ、巡回指導等の外部機関との連携、支援会議やスクリーニングを機能させることができたか。		○スクリーニングによる対応が必要な児童の確認、アクションの方法やその振り返りなど、職員間で共有しながら進めることができた。	B b	○今年度立ち上げたばかりなので、スクリーニングの実施方法なども含めて、今年度の取り組みを振り返り、より支援態勢が機能するようなものにしていく。未然防止のための生徒指導も充実させたい。
		○道徳・人権同和教育の充実	○「自分も他人も認め、大切にできる子どもたち」を育てていくことができたか。		○職員研修として、地域講師を招き、人権同和教育に関わる歴史を学ぶことができた。多様性を大切にし、日常の人権意識を高めるための取り組みを充実させたい。	A b	○人権意識を高めるという点では、まだまだ取り組みが不十分と言える。道徳教育の年間計画を見直し、授業交換などを実施して、学校全体で人権意識を高めることができるようにする。